

授業科目	授業番号： 210			担当者	多田 司・浅海 真弓
	生活科学概論			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活を科学的視点で把握し、生活の諸課題を解決するための知識や力を身につける。</p> <p>【概要】衣服・食・住まいの機能や将来の生活費、消費者問題など、毎回提示された課題について各自考えながら、生活全般についての理解を深める。また、現代の食生活や衣生活の現状と課題を把握し、その課題解決のために生活者としてできることは何か？についても考えていく。(第1回～第7回：多田担当、第8回～第15回：浅海担当)</p> <p>【到達目標】生活者の視点から、様々な生活課題について科学的に考える力を養う。そして、解決に向けて主体的に行動し、豊かな生活を創造していくことを目標とする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 山本直成, 浦上智子, 中根芳一共著『生活科学 (第6版)』オーム社 「生活する力を育てる」ための研究会編『人と生活』建帛社</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 ガイダンス－生活を科学する？</p> <p>第2回 食生活の科学1－自分の食生活を見直してみよう</p> <p>第3回 食生活の科学2－栄養の面から健康的な食生活を考える</p> <p>第4回 食生活の科学3－安全な食生活のあり方について</p> <p>第5回 食生活の科学4－食品添加物について考える</p> <p>第6回 生活環境の科学1－生活における科学技術の役割と弊害について</p> <p>第7回 生活環境の科学2－生活に及ぼす化学物質の影響について</p> <p>第8回 生活の中の衣服－衣服の機能について考える</p> <p>第9回 衣生活の現状1－衣服の原産国と輸入状況について考える</p> <p>第10回 衣生活の現状2－衣服を作る人々の労働環境について考える</p> <p>第11回 住まいの機能－住む家がなくなったら困ることについて考える</p> <p>第12回 将来の生活を設計する1－25歳一人暮らしの生活費について考える(理想の生活)</p> <p>第13回 将来の生活を設計する2－25歳一人暮らしの生活費について考える(生活費の改善)</p> <p>第14回 自立した消費者になるために－消費者の権利と責任について考える</p> <p>第15回 持続可能な社会に向けて－SDGsやエシカル消費について考える</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示(予習・復習用のプリント配布)				
成績評価の方法	<p>多田担当分(50%)：レポート(40%)＋講義への取り組み状況(10%)</p> <p>浅海担当分(50%)：ワークシート・課題(25%)＋レポート(25%)</p>				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 211			担当者	坂上 ちえ子
	生活経営学			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	生活1年, 食 栄2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活経営とは何かを含め、生活を経営する上での諸問題を理解し、自立のための生活経営力の獲得を目指す。</p> <p>【概要】自分と他者の関わりを捉えなおし、個人と家庭、社会をとりまく環境や問題を抽出し理解する。まず生活経営の基礎事項や最新情報を正確に把握する。それらを援用してライフステージごとの課題を各自整理しその解決方法を考える。</p> <p>【到達目標】真の自立と共生のために必要なスキルやマネジメント力が身につくことを目指す。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 基礎事項1：生活経営学と生活を考える</p> <p>第3回 基礎事項2：家族と家庭を考える</p> <p>第4回 基礎事項3：男女の役割を考える</p> <p>第5回 基礎事項4：労働を考える</p> <p>第6回 基礎事項5：経済と消費を考える①</p> <p>第7回 基礎事項6：経済と消費を考える②</p> <p>第8回 基礎事項7：家計を考える</p> <p>第9回 基礎事項8：子どもと教育を考える</p> <p>第10回 基礎事項9：高齢社会を考える</p> <p>第11回 応用事項1：地域を考える</p> <p>第12回 応用事項2：環境を考える</p> <p>第13回 応用事項3：政治と社会を考える</p> <p>第14回 応用事項4：自立を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)				
実務経験について	なし				

(注) 生活科学専攻は教職必修 履修年次 食物栄養専攻2年 生活科学1年

授業科目	授業番号： 212			担当者	金子 信一
	人間関係論			授業外対応	リアクションペーパーで受け付け、 次回の授業で対応する
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	食物栄養 2 年, 生活科学 1年	前期	2単位	食物栄養選択, 生 活科学必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 心理的安全性が育まれる方法をグループ・ワークから理解していく。</p> <p>【概要】 本講義の目的は、グループ・ワークを通して、自己理解や他者理解、自己主張、自己受容、信頼体験、感受性の促進を体験することによって、心理的安全性が育まれることを認識していくことである。</p> <p>【到達目標】 自己理解ならびに他者理解が心理的安全性を醸成していくことを理解すること</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、資料を提示する。</p> <p>(2) 1) 福島 脩美 (2005). 自己理解ワークブック 金子書房 2) 星野 欣生 (2012). 人間関係づくりトレーニング 金子書房</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 認知的枠組み</p> <p>第 3回 価値観</p> <p>第 4回 思い込み</p> <p>第 5回 コミュニケーション I</p> <p>第 6回 コミュニケーション II</p> <p>第 7回 サインとしてのからだ</p> <p>第 8回 感情表出</p> <p>第 9回 共感的理解</p> <p>第 10回 葛藤</p> <p>第 11回 自己開示とフィードバック</p> <p>第 12回 原因帰属</p> <p>第 13回 お守り</p> <p>第 14回 コーチング</p> <p>第 15回 アサーション</p>				
授業外学習 (予習・復習)	人間関係について、興味・関心があることを調べること。				
成績評価の方法	期末試験 (60%) ならびに受講態度 (40%) で評価する。				
実務経験について	精神科医療やスクールカウンセラー、重症心身障害児施設、児童発達支援事業所に携わってきた実務経験は、本講義の内容と深い関わりを持つ。				

授業科目	授業番号： 213			担当者	川崎 竜太
	社会福祉論			授業外対応	授業終了時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会福祉について総合的に理解するために、社会福祉の理念や展開、関連する法制度、ソーシャルワークなどについて実践的に学ぶ。</p> <p>【概要】1. 社会福祉の基本構造や理念について概観し、社会福祉の歴史の変遷について理解する。</p> <p>2. 社会福祉の対象とニーズを理解し、法体系や法制度について学ぶ。</p> <p>3. 社会福祉政策の構成と組織、専門職について学び、ソーシャルワークの実際について理解する。</p> <p>4. 社会福祉の課題について学び、現代社会が抱える社会問題の解決策について考察する。</p> <p>【到達目標】社会福祉の歴史や制度・政策を理解し、今後の社会福祉の展望について説明することができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 立花直樹・波田埜英治・家高将明編著『最新・はじめて学ぶ社会福祉④ 社会福祉－原理と政策－』ミネルヴァ書房</p> <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 社会福祉の構造と理念について学ぶ。</p> <p>第 2回 社会の仕組みについて理解する。</p> <p>第 3回 社会福祉の変遷、理論について学ぶ。</p> <p>第 4回 社会福祉の対象とニーズを理解し、社会福祉の法体系について学ぶ。</p> <p>第 5回 社会問題について具体的に学ぶ、社会福祉政策について理解する。</p> <p>第 6回 社会問題にかかわる社会福祉政策について学ぶ。</p> <p>第 7回 社会福祉の供給組織、行政の役割について理解する。</p> <p>第 8回 社会福祉の専門職の役割と機能について理解する。</p> <p>第 9回 ソーシャルワークの展開、評価及び苦情解決について学ぶ。</p> <p>第 10回 事例を通してソーシャルワークの実際について学ぶ。</p> <p>第 11回 社会福祉の課題①（貧困、人口減少社会、児童関連施策）について学ぶ。</p> <p>第 12回 社会福祉の課題②（地域包括ケア、ノーマライゼーション）について学ぶ。</p> <p>第 13回 多様性支援、福祉政策の国際比較について学ぶ。</p> <p>第 14回 防災福祉、ネットワーク構築について理解する。</p> <p>第 15回 総括（地域共生社会の実現に向けた取り組み）</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>予習：講義範囲をテキストで確認する。</p> <p>復習：講義課題の振り返りを行う。</p>				
成績評価の方法	授業ごとに課題を実施する（30%）、学期末試験を実施する（70%）				
実務経験について	大学教員（准教授）、医療ソーシャルワーカー				

(注)栄養士必修・教職必修